

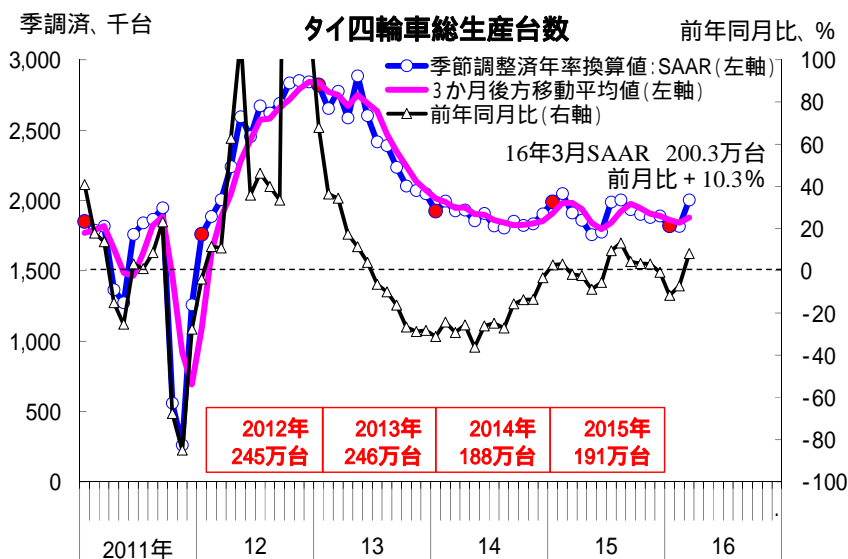
タイ自動車市場月次統計（2016年3月）

3月国内生産は大幅増：「造り過ぎ」で4月以降の生産にブレーキがかかる可能性

国内販売は持ち直したが、輸出の減少基調が続いていることは引き続き懸念材料

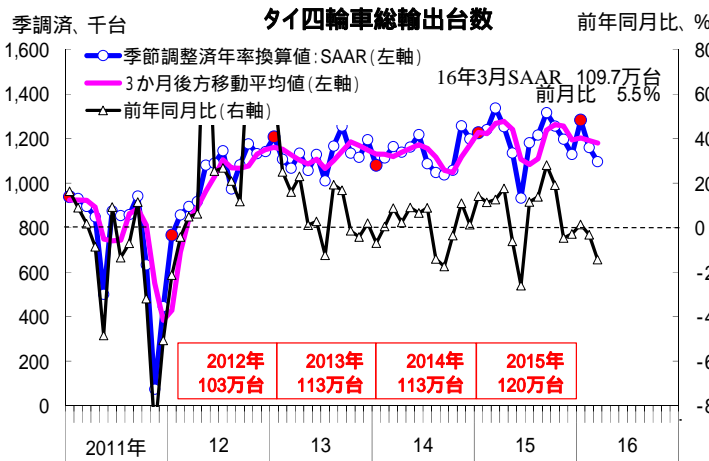
- ・タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：FTI）が発表した2016年3月の四輪車総生産台数は、前年同月比8.2%増と4か月ぶりに増加に転じ、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)も前月比10.3%増の200.3万台と大幅に増加した（図表1）。
- ・3月の強い増産の背景には、タイ最大規模の自動車見本市「バンコク国際モーターショー」（3月21日～4月3日開催）での販売増を見込んだ在庫積み増しがあったと考えられるが、同見本市での受注台数は前年比12%減と期待外れに終わった。過剰在庫が積み上がり、4月以降の生産に対し在庫調整圧力が加わる可能性が高まっており、要注意である。
- ・3月の総輸出台数は前年同月比14.3%減と、2か月連続の前年割れとなり、SAARも前月比5.5%減の109.7万台と2か月連続で減少した。なお、16年1～3月の平均SAARは118万台となり、15暦年実績120万台を下回る水準で推移している（図表2）。
- ・3月の国内販売台数は前年同月比2.3%減と3か月連続の前年割れとなったが、SAARは前月比6.7%増の75.4万台と持ち直した。（図表3）3月の統計を見る限り、税制改正後（1月1日に新自動車税制導入）に落ち込んだ国内販売には底打ち感が出ている。業界では税制改正がどれだけ国内需要の反動減に繋がるかが注目されているが、16年1～3月平均SAARは73万台となっており、大手メーカーの16年国内販売見通し（前年比1割減の72万台）に近い台数であったことから、内需減少は想定範囲内であったと言えよう。もっとも、国内販売が依然として低水準にあることには変わりはなく、消費者の景況感が悪化している中では、先行きは予断を許さない状況にある（図表4）。
- ・国内販売の水準が低く、輸出の減少基調が続いている上に、在庫調整リスクが高まっていることから、目先、国内生産に対しては下方圧力の強い状況が続くと考えられる。

図表1 3月の生産（SAAR）は大幅な増加



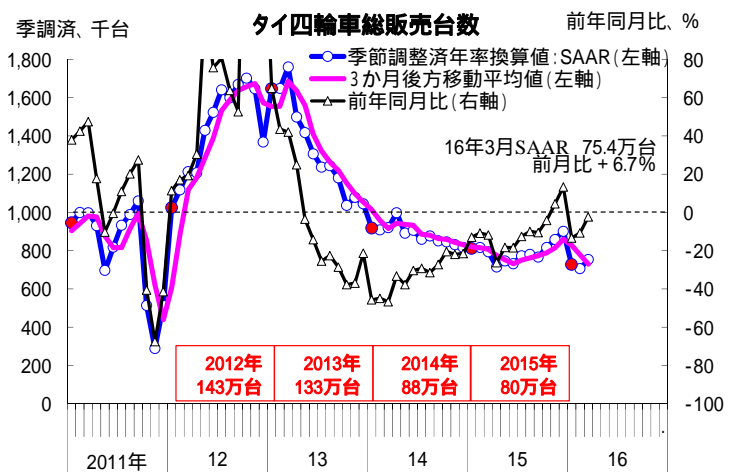
注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2： SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所： Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 3月の輸出台数は2か月連続の減少



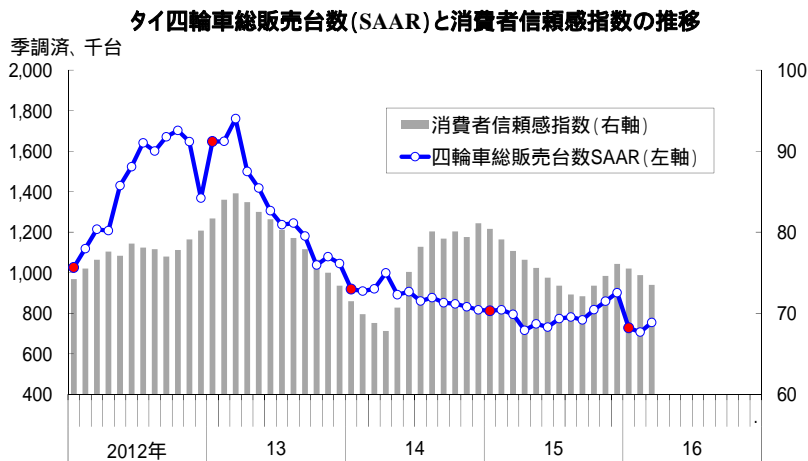
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売は持ち直し



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 景況感の悪化も国内販売の足かせに



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎
 Tel: 045-225-2375
 Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。